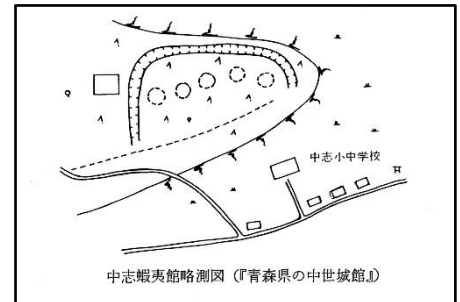


## 防御性集落と城館について

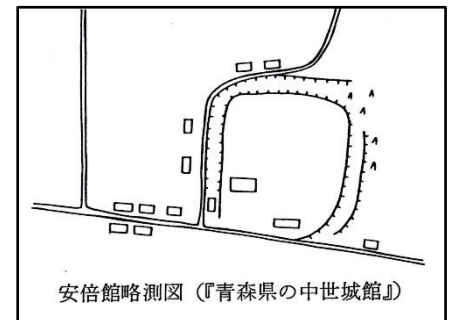
### 1 防御性集落について（10世紀後半から11世紀）

防御性集落は、空堀で囲まれた集落で、一部を空堀で囲む上北型と全体を囲む津軽型（環濠集落）がある。六ヶ所村には、上北型の戸鎖館・鷹架沼南館・中志蝦夷館や多郭構造を持った内沼蝦夷館がある。



### 2 安倍氏の柵や南北朝の城館について（11～14世紀）

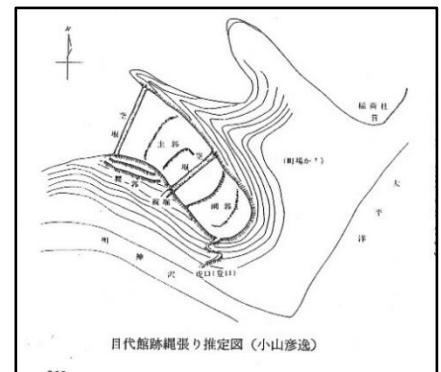
(1) 安倍氏の柵（11世紀）は、段丘縁辺部や低い丘陵上に立地し、自然の沢による区画を最大限に活用しながら、要所に堀を効果的に用いた防御を施す。堀は一重から二重や三重のものもある。六ヶ所村では、方形の安倍館がある。



(2) 南北朝の城館（12～14世紀）は、台地城館で主郭を広く取り台地先端部や細い基部を堀切で小郭を設け、守りを固めている。斜面部分に腰郭や帯曲輪はまだ発達していない。

### 3 室町・戦国時代の城館について（14～16世紀）

拠点城館の大型化と多郭化し、本城は台地上の多郭式城館（例：三戸城）が主流となる。村落領主層や地侍層までもが中・小規模城館を構築し、大字単位で城館跡が残るようになる。六ヶ所村では、自然の沢を利用し、副郭と主郭を持ち堀切（空堀）で守りを固め、縦堀や切岸、腰曲輪が見られる目代館や



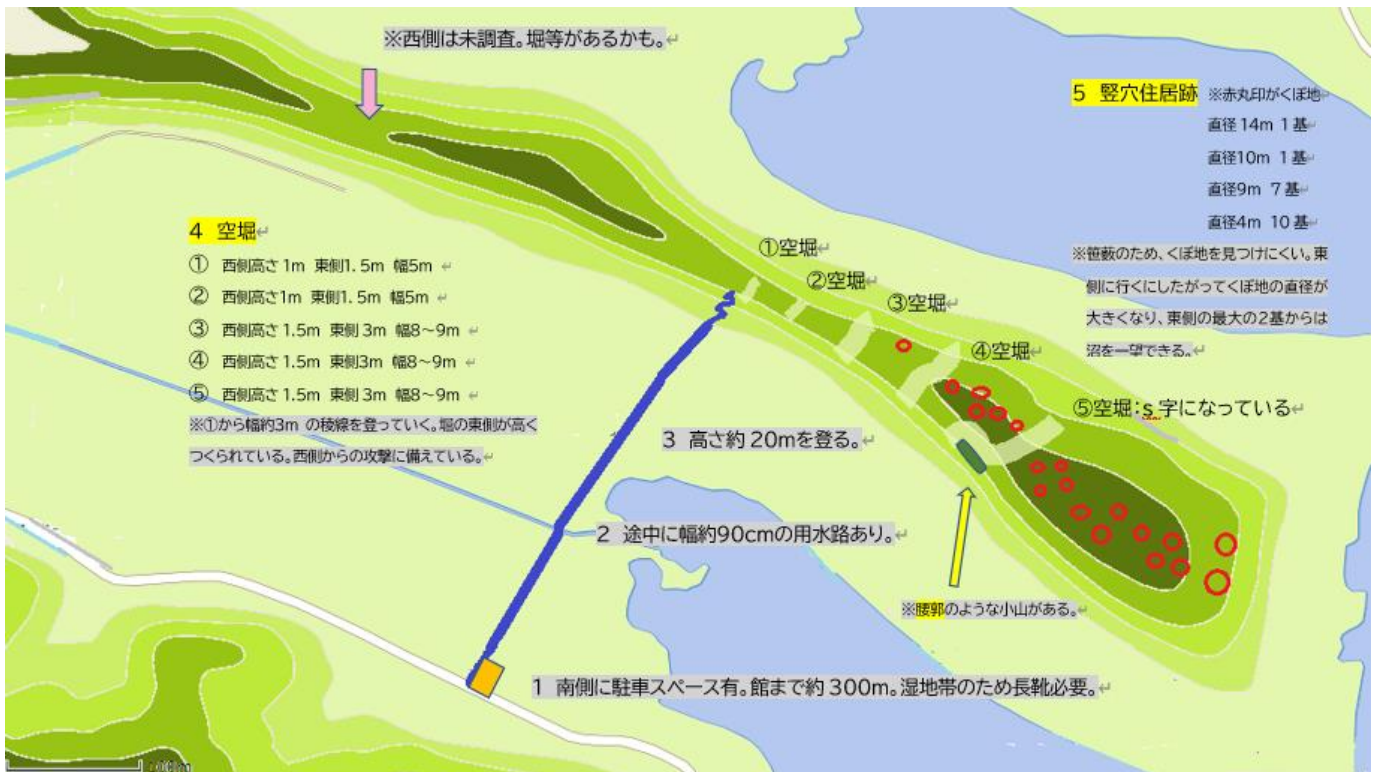
上尾駮館がある。特に目代館は北側に複数の小郭と横曲輪を伴う「館」や稲荷神社がある2段の平場を持つ「館ノ上」と呼ばれる丘陵があり、多郭構造が七戸城に似ている。

### 4 幕藩体制の成立と北奥羽について（17世紀以降）

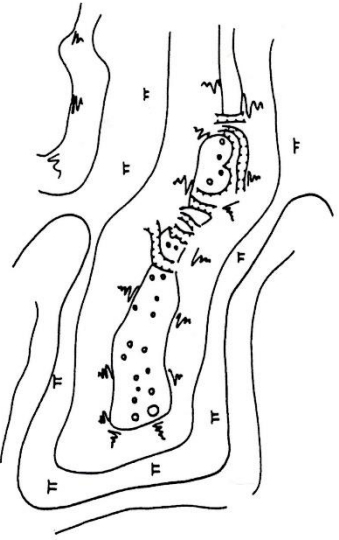
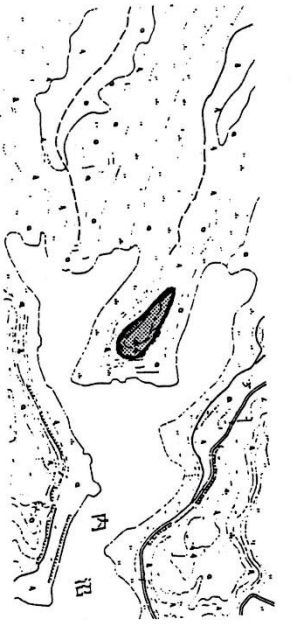
盛岡城が代表的で、花巻城が支城、三戸城が古城と位置付けられている。野辺地は要害（城）屋敷として幕末まで存続している。東北のお城は、天守閣や石垣を持つお城が少なく、土塁のみのお城が多い。東北は、一国一城令下でも、例外的に支城が多いのが特徴である。

# 城館の防御施設について

- 1 郭<sup>かく・くるわ</sup>（曲輪）： 館などを建てる平場（主郭）。その他、副郭や掘切で区切られた平場（削平段）の小郭がある。
- 2 帯曲輪<sup>おびくるわ</sup>： 曲輪を取り囲むように細長く帯のような平場。
- 3 腰曲輪<sup>こし</sup>： 曲輪の横に造られる平場。
- 4 出丸： 斜面に造られた半月上の平場。
- 5 豎堀<sup>たてぼり</sup>： 縦方向の堀。横移動を防ぐ。横堀や斜面を登る堀道もある。
- 5 畝状豎堀<sup>うねじょう</sup>： 畝のように複数並べて掘られている豎堀。
- 6 堀切（空堀）： 尾根伝いからの敵の侵入を防ぐ空堀の一種。
- 7 切岸<sup>きりきし</sup>： 斜面を削り、登りにくくしたもの。
- 8 虎口<sup>こぐち</sup>： 城館の入口。裏にある出入口は搦手虎口<sup>からめて</sup>。
- 9 土塁： 土をもって作った土手。
- 10 馬出： 虎口の外に造られた曲輪。丸い土手の形を丸馬出という。
- 11 土橋： 土でできた橋



※国土地理院地図より作図



内沼罨夷館略測図 (『青森県の中世城館』)

※国土地理院 陰影起伏図より引用

